

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

前期

科目No.	503	科目名	コミュニケーション学事例研究3	サブネーム	地域とコミュニケーション			
連携機関名		レベル	基礎	講義枠	土曜日	講義時間	10:00~11:30,11:50~13:20、14:00~15:30	
科目概要(300字程度)	環境問題は、1960年代の公害問題から端を発し、現在では都市生活型公害からグローバルな地球環境問題まで、問題点は多様でかつ解決する課題が山積している。地域とコミュニケーションの講義は、地域で発生した環境問題を実例を紹介しながらどのように解決してきたかまたどのよな問題点が残されているかをケーススタディーで提案し、環境問題全体を俯瞰する解決策などについて受講者と共に考え、議論する。							

サブタイトル	No.	講義名	講義内容	講義日	教室	講師名	所属	
はじめに	1	環境問題概論	地球誕生から人類の出現、産業革命を経て人類がエネルギーを高度活用する技術を発明し、人類にとっては豊かで快適な生活を求めたために環境問題は地球全体に影響を及ぼす地球環境問題まで拡大してきた。本講座は地域とコミュニケーションの講座のオリエンテーションと講座の狙いについて講義し、議論する。			堀 郁夫	お茶の水女子大学ライフワールドウオッチセンター	
地球環境	2	地球環境問題 1	地球環境問題とは何か、現在問題となっている重要課題について、地方自治体レベルで問題となっている視点を中心に解説し、市民の抱く地球問題とは何かを神奈川県の実例を交え解説し、議論を展開する。	4月14日		加藤 洋	神奈川県環境農政部環境計画課技幹	
	3	地球環境問題 2	地球温暖化について解説し、対応策としての諸政策、省エネ、代替エネルギーなどを事例として紹介し、市民レベルでの温暖化防止対応策について仮題を整理し議論を展開する。					
環境問題各論	4	大気汚染(自動車を含む)	現在の大気汚染の課題は、増え続ける自動車の排気ガス汚染防止が火急の課題となっている。本講義では、自動車Nox法の制定の背景と、各自治体で実施しているジーゼル自動車排ガス対策を中心に事例を紹介し、特に深刻な大都市自動車交通公害について議論する。	4月21日	共通講義棟 1号館 205教室	深沢秀司	神奈川県県北地域県政総合センター環境部環境課 課長代理	
	5	水源地域の水質汚染の課題	化学工業会の化学会社のリスクのアンケートから、水源地域の土壌汚染が最も心配と言うケツツカが得られた。講義はアンケートケツツカの背景と神奈川県の水源地域の相模湖、津久井湖周辺での化学物質による汚染の実例を説明し、何故水源地域の汚染が問題となるかを論議する。				長谷川陽一	神奈川県環境農政部廃棄物対策課 副技幹
	6	廃棄物処理	廃棄物処理の課題は、廃棄物の中間処理や最終処分場の立地である。得に都市部の最終処分場の立地は苦難の連続である。ここでは産廃処理の公共関与の事例として川崎の事業団や芦名の処分場のケースを紹介しながら、最終処分場建設にかかる問題点を紹介し、討議する。			堀江裕一	神奈川県環境科学センター情報調査部 副部長	
	7	騒音・振動	都市騒音問題は、人の健康に支障を起す問題が多々存在してきている。本講義では騒音、振動の定義から、ケーススタディーとして米軍厚木基地の航空機騒音の実態や新幹線から生じる低周波騒音の健康に与える事例を紹介し議論をする。					
	8	資源循環型社会	都市ごみ問題の課題は、拡大生産者責任(Extended Producer Responsibility)であり、次にリサイクルの質の問題であり、さらに3R(Reduce/Reuse/Recycle)等の視点が必要とされている。この講義ではこれらの視点に対して自治体がどのように取り組んでいるかの実例を紹介し、議論する。	5月12日			小林幸文	神奈川県足柄上地域県政総合センター環境部 環境課長
	9	エコタウン	資源循環型産業廃棄物処理システムとして、エコタウン構想やエコ工業団地の出現が、国主導でモデル事業が行われてきている。この講義では、川崎市の工業団地での取り組みを紹介し、問題点の所在を講義し、議論する。					
	11	PCB処理・廃プラ	PCBは現在製造が禁止されているが、過去、電気機器の絶縁油を始め多くの分野で使用されていた。現在は、使用のものを含め大量に保管されている。これらの処理に対して国が使用中のものも含めPCBの処分方法を策定したのを契機に、PCBの処分が開始された。この講義では、PCB処分方法とその現状を解説し、問題点を討議する。	5月19日			庄賀文彦	日本環境安全事業株式会社 環境安全部長
	12	企業の環境対策	企業特に化学物質を数多く扱うコンビナート事業所は、PRTR法施行以来、地域住民とのリスクコミュニケーションについて取り組んできている。本講義では川崎のエチレンセンター工場の環境対策の実例紹介し、地域対話としてのRC活動の中から住民と企業の問題意識を紹介し、問題点について議論する。				太田 進	エヌピーシーセキュリティ株式会社 代表取締役社長
	地域とコミュニケーション	13	市民との対話事例	化学物質の排出移動登録(PRTR)制度施行実績とレスポンスケア活動の状況について、地域対話事例をNPOの立場から解説し、議論を展開する。		5月26日		小山富士雄
10		環境アセスメント	環境アセスメント法が施行以来、一定規模を超える事業所の設置に伝は事前に環境負荷について公表し住民の理解を縦覧という手法を使って紹介してきている。本講義では、いくつかの環境アセスメントの事例を紹介しながら、アセスメント手法そのもののあり方や問題点について議論する。		青山尚巳		神奈川県県央地域県政総合センター環境部 環境課長	
14		産業災害と環境汚染	産業事故で、環境汚染が発生した大事故は、1980年代に多発した。本講義ではケーススタディーとして、イタリヤのセブソで発生したダイオキシン汚染やインドボパールで発生したイソシアン酸メチル漏洩事故からリスクマネージメントの重要性について講義する。	6月2日		島田行恭	(独)労働安全衛生総合研究所 主任研究員	
15		社会合意形成支援システム	化学企業と住民がリスクコミュニケーションを支援する手法として「化学産業安全にかかわる社会合意形成支援システム」を科学技術振興機構「社会技術研究開発センター」で開発した。本講義では、システム開発の経緯とシステムの内容を紹介し、リスクコミュニケーションのあり方を議論する。			川端鋭憲	お茶の水女子大学ライフワールドウオッチセンター	

